

『OUTDOOR GAMES』で最初に紹介されているゲームがラウンダーズです。「投げて、打って、塁を回る」という野球の原型を備えたゲームで、著者のストレンジ氏は、野球の起源となったと書いています(注参照)。ラウンダーズのルールにも様々なバリエーションがあり、ここでは、序文で参考文献に上げている『The Boy's Own Book』『Every Boy's Book』の二冊の内、『Every Boy's Book』を参考にして、塁が5つあるラウンダーズが紹介されています。(『The Boy's Own Book』のラウンダーズは塁が4つ)

【注】

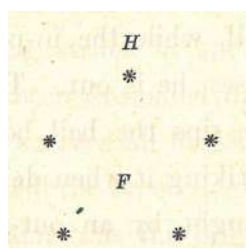
ラウンダーズと野球

アメリカで1866年に出版された『American Pastimes』の中でも、野球の起源はラウンダーズと書かれています。しかし、1907年にベースボール起源調査委員会が「野球は1839年にニューヨーク州クーパースタウンでアブナー・ダブルディー氏が考案した」と発表しました。その後、ロバート・ヘンダーソン氏らの研究により、イギリスで出版された『The Boy's Own Book』(1828年)のラウンダーズとアメリカで出版された『The Book of Sports』(1834年)のBase, or Goal Ballの内容がほとんど一致していることが指摘され、再びラウンダーズが野球の起源とされました。さらに最近では、ラウンダーズは19世紀になって登場した名前ですが、それ以前はベースボール(Base-Ball)と言われていて、この時代にすでにアメリカに伝わっているため、イギリスのベースボールが起源だとする意見もあります。いずれにしても、野球は「アメリカで独自に考案されたもの」ではなく「イギリスの子供の遊びがアメリカに渡り、スポーツへと発展したもの」と言えます。

ラウンダーズ

とても面白くてワクワクするゲームだ。真冬をのぞけば、季節を問わずいつでもできる。手ごろな大きさのボールと、2フィートぐらいの長さのバットを使う。2つのチームが対戦し、両チームは同数で5人から10人の選手がいる。

ゲームをするためには、5つの塁(大きな石が良い)を、16ヤード間隔で五角形のそれぞれの角になるように置く。



(訳者注 H: 本塁、F: フィーダー)

図の中央にあるのが、フィーダーの位置と呼ばれる場所だ。フィーダーの場所から本

塁にいる攻撃側選手にボールをやさしくトスする一人と、本塁の後ろにいてボールをフィーダーに返すもう一人をのぞき、守備側の選手はグラウンドのあちこちに散らばる。そして、攻撃側選手がバットでボールを打ち、上手く打てたならバットを置いて一塁、または、できるだけ先の塁へと走る。しかし、到達したすべての塁にタッチする必要があり、タッチしないとアウトになる。塁と塁の間を走っている時に、守備側の投げたボールに当たったらアウト。キャッチャーにボールが戻り本塁にタッチされたら、塁と塁の間にいる攻撃側の選手はアウト。ボールをこすって後方へ打ったり、空振りしたらアウト。また、守備側が打球を捕球したならアウトだ。フィーダーはボールを本塁にトスするふりをして、攻撃側選手の離塁を誘い、走る選手にボールを投げ当ててアウトにできる。攻撃側選手は塁を回って本塁に到達しながら、最後の一人を残して全員がアウトになるまで順番にバットを持って攻撃をする。最後の選手は二回打つことができる。この選手が本塁に立ちフィーダーがボールをトスする。気に入らなければ打つ必要はなく、打たなければフィーダーは打者が要求するだけ何度もボールをトスしなければならない。一回目にボールを打った時は、満足できる距離まで飛ばなければ走らなくても良い。しかし、二回目はボールを打ったなら、ボールに当てられずに、ボールが本塁にタッチされる前に、順番通りに塁を回らなければならない。もし上手く本塁に到達すれば、全員でもう一度攻撃ができる。失敗したなら、もう一方のチームの攻撃になる。このゲームが野球の起源だ。現在イングランドの運動場では、一番人気のあるゲームだ。このゲームは特に推薦する。

翻訳：学芸員 新美和子